

とようけのおおかみ

# 稲作発祥の地 神秘の豊受大神

## つき わ でん 月の輪田 田植え式

# ふるさと わがまち わが地域

峰山町二箇区

月の輪田 特別号

### 区民の手によって復活を遂げた月の輪田

知事も参加 月の輪田田植え式

6月2日(日)午前10時から、峰山町二箇区で「稲作発祥の地 神秘の豊受大神 月の輪田 田植え式」が行われました。

「月の輪田」とは二箇区にある史跡です。「丹後旧事記(たんごくじき)」などによると、食物の神である豊受大神は、太陽の神である天照大神(あまてらすおおみかみ)のために稲作を試みたとされています。そのとき初めて初種(もみだね)を水に浸したのが苗代(峰山町二箇)の「清水戸(せいすいど)」であり、その初種を蒔いたところが「月の輪田」(峰山町二箇)といわれています。

また、古歌に「いざなぎや 種をひたする清水戸 五穀始まるこれぞ苗代」ともあり、ここで豊受大神が

初めて稲作を始められた我が国の稲作発祥の伝説が伝わる地であります。そして代々の領主は除地(じよち)としてこれを保護し、毎年身を清めて稲を作り、白米一斗三升を初穂として伊勢神宮に奉納していたそうです。

今年(丹後建国1300年)を迎えるということもあり、二箇区の皆さんや京丹後市が早くから準備をしておきました。

当日は、心配されていた雨も開式前に止み、区長挨拶、市長祝辞に続き、林芳正農林水産大臣からのメッセージ、豊受大神が祀られている伊勢神宮のある伊勢市長からのメッセージが披露されました。

続いて「よしもと住みます芸人」の月亭太遊(つきていとう)さんの落語会が開かれ、区民一同大笑いで盛り上がり、お腹を空かせたところで「古代米おにぎり」の試食会

後、田植えを開始。昔ながらの早乙女姿(さおとめすがた)を纏(まと)った地元のご婦人方や子どもたちが一斉に古代米の苗を植えながら山田啓二京都府知事の到着を待ちました。

12時50分頃に山田啓二京都府知事が到着。田植え長靴に履き替えて、中山泰京丹後市長や、たつみ昭府議会議員も月の輪田に入り古代米を植え付けました。野木達秋(のぎたつあき)区長によると、「月の輪田」で最後に田植えをしたのは江戸時代のことではないかとの事です。

田植えを終えた後は公民館で住民・知事との交流食事も開かれ、区にとってまたとない知事との交流の機会を持つことができました。

今後は、収穫祭や、伊勢神宮への奉納などを考えておられます。また、短期のイベントで終わらない様、継続した行事にしていきたいと二箇区の人たちは情熱を注いでおられます。



圃場整備前の月の輪田 昭和40年頃



知事、市長、府議らによる古代米の田植え



開式の挨拶を述べる野木達秋区長



知事を囲んで記念撮影



一列で田植え



楽しかった太遊さんの落語

#### 伊勢市長メッセージ

京丹後市長 中山 泰 様  
京丹後市峰山町二箇区の皆様

この度は、丹後建国1,300年という記念すべき年に稲作発祥の地「月の輪田」で古代米の田植えが挙行されますこと、お喜び申し上げます。

「月の輪田」で初めて稲作を始められたとされる豊受大神を祀っておられる京丹後市の久次にある比沼奈為神社が伊勢外宮の一番元のお社ということをお聞きし、本市にある伊勢神宮とは深いつながりがあることを大変うれしく思っています。本年、伊勢神宮では遷御(せんぎょ)の儀が行われる年に、「月の輪田」が復活されることは、益々深いつながりを感じるとともに、後世に伝えていく、大変意義深いものであると、心から敬意を表します。

この「月の輪田」が復活されることを機会に京丹後市と本市のつながりがますます深まることをご祈念申し上げますとともに、本日ご参加の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

平成25年6月2日

伊勢市長 鈴木健一

#### 京丹後市「月の輪田」田植え式

#### 農林水産大臣メッセージ

京丹後市長 中山 泰 様  
京丹後市峰山町二箇区の皆様

本日、丹後建国1300年の節目に、貴市において「月の輪田」の田植え式が行われるにあたり、心よりお慶び申し上げます。

日本は瑞穂の国と呼ばれますが、この「月の輪田」が我が国の稲作発祥の地であるということは、いわば瑞穂の国の原点であるとも考えられます。この伝統ある「月の輪田」を継承し、また地域の活性化に役立てようという京丹後市の皆様に敬意を表します。

農林水産省としても、安倍総理の下、瑞穂の国を象徴する美しい田園風景や伝統ある文化を守り、未来に希望を持てる強い農業を作っていくよう、力を尽くしてまいります。

平成25年6月2日

農林水産大臣 林 芳正